

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 6 年度第 1 回 富士見市生涯学習推進市民懇談会 議事録</p>						
日 時	令和 6 年 1 0 月 9 日 (水)		開会	午後 3 時 0 0 分		
			閉会	午後 5 時 3 0 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出 席 者	参加者	出井(隆)氏	新井氏	木原氏	佐々木座長	田屋氏
		欠	○	○	○	○
		出井(あ)氏	山崎氏	深瀬氏	小谷氏	森本氏
		欠	欠	○	○	○
	事務局	生涯学習課 課長、主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 なし)					
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 座長選出</p> <p>3 内 容</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 令和 5 年度富士見市生涯学習推進アクションプランの進捗状況評価及び課題の洗い出しについて</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 令和 6 年度富士見市生涯学習推進アクションプランについて</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 市民アンケートの実施について</p> <p>4 そ の 他</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 今後について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 次回の懇談会について</p> <p>5 閉 会</p>					

議 事 内 容

1 開 会

開会にあたり、生涯学習課長からあいさつを行った。

2 座長選出

協議の結果、佐々木氏を座長として選出した。
佐々木座長からあいさつを行った。

3 内 容

(1) 令和5年度富士見市生涯学習推進アクションプランの進捗状況評価及び課題の洗い出しについて
事務局より、令和5年度富士見市生涯学習推進アクションプランの進捗状況評価及び課題の洗い出しについて説明を行った。
協議事項は以下のとおり。

参加者

各事業の評価は誰がどのように行うのか。

事務局

各事業の担当課が行う。事業実施前に事業目標、事業概要を定め、事業実施後、事業実施結果欄に客観的な視点でコメントを記入し、事業手法や成果について3段階で評価を実施している。

参加者

自己評価であればA評価は付けにくい部分があり、B評価が多くなると考える。数値目標等を設定し、その目標を達成できればA、できなければBという認識でよいか。

事務局

その認識で問題ない。事業目標についてはできる限り数値目標を設定し、客観的な評価ができるように周知している。しかしながら、実際には数値目標を設定することが困難な事業もあり、感覚的な評価になってしまう場合もあることは認識している。

参加者

「避難行動要支援者支援制度」について、大切な事業であると考えているが、アクションプランから削除した場合、今後は事業を実施しないということか。

事務局

事業としては所管課である福祉政策課が継続する。アクションプランに掲載された経緯は、要支援者への支援方法など、支援者への学習の機会があったため。しかしながら、現状では事業として成熟し、支援者の知識も深まっていることから、学習という面ではふさわしくないという判断を行ったものと認識している。

参加者

このアクションプランに掲載する事業について、どのような基準を定めているのか。

事務局

第3次計画策定時に、第2次計画の評価対象事業から変更があるか各所管課に照会し、その結果を基に選定した。生涯学習という分野は幅広く、

	基準を定めることは難しいが、見方によって生涯学習に該当するようであれば掲載している。
参加者	法令などで定義されているものがあれば教えてほしい。
事務局	社会教育法等の法令や、文部科学省の答申などがあるが、やはり幅広い解釈ができるものと考えている。
参加者	行政単体でなく、市民が参画する学びの場として「コスモス街道」は面白いと感じた。
事務局	本事業はシティプロモーション課の事業であり、「市民との協働による事業の実現」「市民間交流の促進」という観点から考えると、生涯学習に通じる部分がある。
参加者	何らかの学びがある、学びを追求するために交流が生じるということであれば、生涯学習の場として捉えるという認識でよいか。
事務局	ご認識のとおり。
参加者	「避難行動要支援者支援事業」について、町会や民生委員等、参加する市民の動機付けが上手くいかなかったのか。アクションプランから削除するということは、市民との協働をやめて行政だけで取り組むつもりなのかという印象を受けた。
事務局	アクションプランに掲載されなくなったので事業が衰退していくという訳ではなく、所管課が今後も事業を継続していく。なり手が少ないという課題については、所管課が何らかのてこ入れをしていくものと考えている。
参加者	生涯学習の場としては難しくなってきたので、削除という認識か。
事務局	その認識で問題ない。
参加者	資料1の9番「市民参加・協働推進事業」はBと評価されているがこの評価は適当か。昨年、協働事業提案制度の補助金をもらい、国旗講演会を行った。小学生とその保護者など、100人近くに参加してもらい、一定の成果はあったように思う。ふるさと祭りにも参加しているが、毎年盛況であるためAと評価されていることには納得できる。また、出前講座についてはB評価となっているが、各事業の評価については担当課に直接確認したほうがよいのか。
事務局	この懇談会でいただいた意見や質問は担当課にフィードバックする予定である。質問内容は3事業がどのような観点でそれぞれの評価となったか、という認識でよいか。
参加者	よい。

事務局	承知した。担当課と調整し、回答する。
参加者	アクションプランにも評価一覧に付いている番号を付けた方がわかりやすい。
事務局	承知した。
参加者	鶴瀬公民館の事業である「介護予防事業」について、数値目標が20名、実施結果の参加者数が318人（つるの会）と130人（げんきかい！）となっている。実施回数で割り返せば各回のおおよその数が出ると思うが、どのように達成状況を測ればよいか。また、記載内容を見ると積極的に取り組んでおり、A評価でもよいような印象を受けた。
事務局	人数については延べ人数と思われる。
参加者	このような数え方をしてよいかは分からないが、つるの会とげんきかい！の人数を合わせると448人となる。これを12で割ると月当りの参加人数は目標を超えているのでA評価でもよいのではないか。
事務局	公民館に確認する。
参加者	このアクションプランが各所管課から上がってきた時に、生涯学習課ではヒアリングを行っていないという認識でよいか。
事務局	基本的にはご認識のとおり。疑義が生じた場合は各所管課に確認を行う。
参加者	アクションプランについては毎年度作成しているものと捉えているが、昨年度の評価を今年度評価の隣に配置すれば変化がわかりやすい。
事務局	承知した。アクションプランは1年度ごとに組み換えを行うため、削除する事業もあることはご理解いただきたい。
参加者	公民館での活動時に感じたことだが、外国の方が増えてきたこともあり、災害時等の緊急時にどのように避難誘導等を行うかが新たな地域の課題である。
事務局	市としては、外国の方向けに地域防災計画ガイドを5か国語で作成し配付している。また、やさしい日本語という、子どもに伝えるような簡単な日本語によるガイドも作成している。
参加者	私自身がやさしい日本語を使った街歩きの活動をしている。教育委員会ではやさしい日本語の活用について積極的であるが、市長部局ではそれほどではないように思う。市民側から更にプッシュしていく必要性を感じている。
	（2）令和6年度富士見市生涯学習推進アクションプランについて事務局より、令和6年度富士見市生涯学習推進アクションプランについて説明を行った。協議事項は以下のとおり。

参加者	防災訓練が年1回は少ないような気がする。もう少し増やすことはできないか。
事務局	ここでの防災訓練は市が主催し、地域と協働で実施する規模の大きい訓練のことと思われるが、担当課に情報共有する。
参加者	時期や回数など、この懇談会で出された意見は翌年に反映されるのか。
事務局	約束はできないが、所管課にフィードバックする。
参加者	ビアフェスタが掲載されていないのはなぜか。
事務局	掲載する、しないは担当課の判断による。担当課の中で生涯学習には当たらないと判断したのではないか。
参加者	国分寺市の公民館の事例であるが、ビールに関する講座を開講したところ、これまで公民館に来ることがなかった働き盛り世代からの参加が多数あった。普段公民館に来ない層を取り込むためにも、アクションプランに掲載した方がよいと思う。
参加者	個人でできる楽しみが多くある中、町のために協力的な人を集めることは大変で、後継者不足などの問題もある。外国の方も独自のコミュニティを構築している。協力的な体制を作り出すためには市が正しい情報を発信していくことが必要ではないか。
事務局	行政としても情報発信に関する課題はあるものと認識している。生涯学習ガイドなど、周知のための取り組みは行っているが、どうすれば人とのつながりを作ることができるのかということも考えていく必要がある。
参加者	生涯学習ガイドについては社会教育委員会議の議題としても挙がっている。各公民館に閲覧用として置いてあり、持って帰ることはできない。市ホームページにおいてもPDFで掲示されているのみで、見やすさに課題があると考えている。狭山市では、「さやマルシェ」というポータルサイトを作成し、イベント情報なども見やすいと感じている。富士見市のホームページでもイベントカレンダーは最新情報を見ることができ、よいと思う。ビアフェスタがよいと思ったのは、隣り合った人とオープンな気持ちで話ができ、繋がりを作ることができるようになる点。何らかの形で毎年続けてほしい。
参加者	ビアフェスタには実行委員として関わった。埼玉県にあるブルワリーに来てもらって開催した。親子で来ることができるビアフェスタをやりたいという思いがあり、親子イベントを担当した。50周年ということもあり、実行委員会で話し合い、ららぽーとやキラリ、市役所と協力しながら実施することができた。出来れば毎年やりたかったが、あの規模の催しは難しく、現在はららぽーと富士見の芝生広場で行っている。ビアフェスタ自体は都内でも数多く実施されており、オリジナリティがない

	と埋もれてしまう。その意味で、親子イベントを大学生などと一緒に行えたことはよかったと思う。
参加者	毎年やれば何かしらのコストは下がっていくのではないか。また事後にイベントを知った方も多く、行って見たらもうビールがなかったと、とても残念がっていた。
参加者	色々な人が来れば、色々な興味を持った人が集まる。そこを上手く紐付けして、人同士や地域同士が協力し合える体制を計画に落とし込み、生涯学習課から提案してほしい。
参加者	フェスティバルなど、大きなイベントは参画している様々な団体が広報を行い、様々な人が参加するので、やる価値はあると思う。実施にあたってはお金がかかるが、できるだけお金がかからないような方法を模索して開催してほしいと願っている。
参加者	事業予算が書いていない事業があるが、お茶も出さないということか。
事務局	お茶も出さない事業はあるものと考えている。また、予算としてはゼロだが、消耗品費等他の予算から出している事業もある。
参加者	小学校区避難訓練では炊き出し訓練を行っていないのでやった方がよい。避難の責任者については、地域で責任者を決めて運営しているのか。
事務局	各小学校に担当職員を配置している。有事の際は避難所運営マニュアルに沿って、町会長を中心とした地域の方と一緒に避難所の運営を行う。
参加者	避難訓練の内容について、炊き出し訓練では消費期限が近いものを使用し、新しいものを補充するなど、発展的な訓練を行った方がよい。
事務局	消費期限が近いアルファ米は地域の自主防災会に配布している。
参加者	何年前かに育成会の会長を務めた際、当時の町会長からアルファ米を使った訓練をやってくれと依頼を受けた。子どもたちに体験させてあげたい気持ちがあり、時期的な難しさもあったが、手伝いをしている三芳の子ども食堂に相談し、防災の日を実施することできた。アルファ米等の物資を地域に配ればよい、というのではなく、事前に相談した上で予算等を組んで実施するなど、計画的な行動が大切だと考えている。備蓄食料は4年に1回入れ替えを行うものか。
事務局	備蓄食料は実際に避難所を開設した際などに配布するため、コンスタンスに出ていくものでもない。東日本大震災の発災時には東北へ備蓄食料を送った。その年により、消費が多い年もあれば少ない年もある。
参加者	備蓄食料の地域への配布については、しっかりとしたプランがあるなら事前に地域に提示してほしい。

参加者	「防災訓練」を上手くイベント化してみるとよいと思う。地域の人が「このイベントをやりたい」と手を挙げられる機会がなかなかない。富士見市は優しい街なので、機会があれば手を挙げると思う。行政が手を挙げることができる仕組みを作るとともに、手を挙げてくれた人に丸投げするのではなく、行政や先輩が励ましたり教えたりする体制が、今の時代では大切だと思う。
参加者	和光市の事例であるが、講座を開催し、その際におすすめのレトルトパックを持ってきてもらい、昼食時にアルファ米と一緒に食べる。そういった「推しの」レトルトパックを持ってくるイベントなどを作ると楽しめると思う。市の講座やイベントに組み込んで市から周知をし、参加者と協力していくという体制を作れると、活動をスムーズに行えると思う。
参加者	「防災」をイベント化してみんなで楽しむことはよいことだと思う。
参加者	防災訓練等は、地域の顔をつなげる目的もあるが、いつも同じメンバーが頑張っているような印象である。その点で、一見防災とは関係なく見えるコンテンツを取り入れることはよいと思う。
参加者	総合防災訓練では自衛隊のカレーや子どもが楽しめるようなコンテンツがあり、悪天候であったが多数の参加者がいた。ただ行って帰ってくるだけのイベントには誰も参加しないように思う。
参加者	「訓練」という言葉にも堅いイメージがあると思う。現在行っている訓練も、防災訓練だけでなくイベントや食事の提供を受けることができることを知っている人だけが集まっている状態であり、もったいないと思う。
参加者	防災も楽しい事業を取り入れると変わってくるかもしれない。
参加者	インターネットを利用することは生活基盤となりつつあるが、自分自身はSNS等を使用することがとても苦手である。高齢者だけの問題ではなく、青少年も正しい情報の選別は難しいだろう。ライフステージに沿った情報の正しい利活用についてはどこが担当しているのか。
参加者	スマホについては小学生や中学生も結構な数の児童・生徒が持っている印象。学校で指導は行っているのか。
参加者	学校としては家庭に任せるという方針だと思う。フィルターやファミリーリンクなどの規制をかけて使わせる家庭、大人と同じような状態で使わせる家庭など、様々である。トラブルについては毎年話が出ている。我が家では使用するスマートフォンには規制をかけているが、そこまでしないという考えの親もいる。学校では注意喚起をして正しい情報提供をしていると思われる。
参加者	怪しい情報が多くある中で、保護者側の知識も更新する必要がある。

参加者	親世代にも習熟度に差があり、そつなくこなせる人もいれば、そうではない人もいる。当たり前だが、そういった人は子どもに教えることもできない。操作に関する知識も与える必要があると思う。
座長	大人でも勝手に人の写真をWeb上にアップする人がいる。大人に向けた教育も必要だと思う。こういった講座を開催するように生涯学習課から各公民館に呼び掛けてほしい。
事務局	トラブルという観点では、消費生活も係わるかもしれない。情報リテラシーに関する注意喚起や講座を行うことで啓発することも考えられる。また、家庭教育という観点から市PTA連合会で過去に講座を行ったと聞いたことがある。スマートフォンを使えるようになった高齢者に対する情報リテラシー等の周知啓発を行うことについて、公民館に提案する。
参加者	公民館のスマホ教室も、注意喚起だけではつまらないと思う。
参加者	小学生が自分でプログラムを組んでゲームを作ったりする等、子どもの方が使いこなしているケースもあり、親が子どもについていけないと感じる。とは言え、高齢者のニーズは特に高いので、高齢者に対する学習の場は必要だと思う。
参加者	知り合いに質問できる環境がある方はよいが、今は一人暮らしの方も増えている。スマートフォンだけではなくマイナンバー等、分からない人が相談や質問できる場が必要である。
座長	資料6の14ページ「コミュニティ大学の活動支援」について、現在の支援内容はびん沼荘の無料使用と送迎バスである。受講生の中には学習意欲が高い高齢者が多く、カリキュラムを組むことも大変である。市民大学のように講義に関しても支援を考えてほしい。せめて年に1回でも有名な先生を呼ぶことができれば。
事務局	コミュニティ大学はこうれい大学の意志を引き継ぎ開講した。担当である高齢者福祉課に確認したところ、予算はなく、運営についてはコミュニティ大学の皆さんが主体的に行っており、高齢者福祉課はそれをサポートしているという話だった。
座長	以前は社会教育課が担当していた。途中から高齢者福祉課が担当となり、予算が無くなった。
参加者	コミュニティ大学と市民大学、それぞれに特徴がある。市民大学は講義に力を入れており、著名な講師による講座など、教養の取得に力を入れていると思う。コミュニティ大学はサークル活動などに力を入れており、受講者の横のつながりが強いと感じた。比べる訳ではないが、生涯教育の観点からはコミュニティ大学は有用であると思う。
参加者	コミュニティ大学では講師をどのように選定しているのか。

参加者	我々で見つけ、低謝礼でやってくれる講師に依頼する。また、無料でできる出前講座や人材バンクを活用することもある。謝礼は受講料より支出しており、クラブ活動の講師に謝礼を支払っている。
座長	市民大学は100万円を超える補助金があるので、コミュニティ大学にも若干の補助金をもらえるように高齢者福祉課に伝えてほしい。
座長	15ページの「ふじみパワーアップ体操」について、「パワーアップリーダー養成講座」に知り合いが申し込もうとしたが、今年は開催しないとされたので、健康増進センターに確認してほしい。
事務局	承知した。確認する。
参加者	昨年度は8回講座2コースで302人の参加があるようだ。今年は開催しないのだろうか。
座長	パワーアップ体操はリーダー養成講座の修了者がリーダーとなって各公民館、交流センターで教室を開いている。知り合いもリーダーになりたくて問い合わせたようだ。
参加者	鶴瀬公民館の事業「小学校体験教室」について、事業目標が参加人数30人となっているが、事業概要では募集人数10～20人程度となっている。整合性がないのではないか。
事務局	確認する。 (3) 市民アンケートの実施について 事務局より市民アンケートについて説明を行い、意見を求めた。 意見、質疑は以下のとおり。
参加者	Q5は現在行っている活動、Q8はこれから行いたい活動についての質問であるので、選択肢の文言をそろえた方がよい。個人的にはどちらかというQ8に合わせた方がよい。また、「まちのイベントに参加した」という選択肢があるとよい。なるべく、自分は生涯学習をやっていないと思わせるような質問は避けた方がよい。知らず知らずのうちに生涯学習に取り組んでいたというポジティブな気持ちにさせた方がよい。例えば、子どもを連れてPTAの活動に行くことや、ビアフェスタに参加することも生涯学習であると考えて。
参加者	少し文言が難しいように感じる。例えば小学生には「必要な知識と技能」という言葉の意味が分からないと思う。
参加者	学校や地域のボランティアに参加する小学生は少なくないと思う。その子どもたちに合わせた選択肢がないのはかわいそうに思う。
参加者	広く言えば募金も対象になると思う。

参加者	継続的に募金した場合は寄付団体から活動レポート等が届くことがある。そこから興味関心が広がり、抱えている問題が何かを学ぶことは生涯学習につながると思う。
参加者	生涯学習の範囲をどこまで広げるかが難しい。
参加者	このアンケートは11月1日から11月29日で実施するものと認識している。
事務局	ご認識のとおり。配布、印刷の関係もあるため、アンケートについての意見は今お願いしたい。この場でいただいたご意見を事務局で精査し、修正させていただく。
参加者	修正したものを郵送してもらうことはできるか。
事務局	そのようにさせていただく。
参加者	アンケート集計結果の公表時期やフィードバックの内容について、アンケートに明記しておいた方がよい。
参加者	Q6、Q7の結果はしっかり押さえて対応した方がよい。
参加者	<p>物を売る時によく思うが、これを手にしたらどうなるか、という最終形態が見えないとお客さんは買ってくれない。ここに来ればこうなれるというイメージが大切。生涯学習に取り組むとこんな満足度が得られるというのが具体的にわかると、興味を持って見てもらえると思う。生涯学習を「知っているか」「やっているか」だけ質問しても相手は関心を持たない。生涯学習に関わるとどのような良いことがあるのか、きちんと示すことが必要である。</p> <p>活動している方に情報を提供することが大切だと思う。現状、公民館は高齢者の利用が多い。しかし、自分達の世代が高齢者になった時、今の高齢者と同程度利用するか、疑問である。今の人では自分で興味のある情報にアクセスでき、家の中も充実し、機器を使って何でもできる環境がある。そのため、人とつながりを作るメリットが感じられない。人とのつながりは災害時や人生を充実させるために必要であるが、若い人にはその必要性が薄まっている。このように取り組むと、こんな風を楽しめるということをデザインすることが大切。ビアフェスタが成功したのはみんなで楽しく呑める場所をデザインできたから。</p> <p>これだけ多くの対象者にアンケートを実施できることは市の強みである。アンケートの結果を踏まえて、どのようにしたら次の世代の方々の活動につながるのか、しっかり考える必要がある。現在一番多い利用者層である高齢者が活動をやめてしまうと、これまでの活動を継続することができず、市が今までやってきたことの意味がなくなってしまう。今活動している人たちはこんな楽しいことをしていて、こんなに楽しいつながりがあって、ということをお客観的にわかるようにし、時間がある時にやってみようかなと思ってもらえるような仕掛けづくりが、とても大切だと思う。ただ集計するだけのアンケートではなく、実情をきちんと把握できる質問を考え、今後にかかしていくことが大切である。</p>

参加者	アンケートは事前の設計、作りこみが大切。何かできることがあればお手伝いしたい。
事務局	アンケートの修正について、Q 5、Q 8 の修正についてはQ 8 をベースとしてよいか。
参加者	Q 5 はこれまでの活動を問うもの。一方でQ 8 は、これからの活動を問うもの。必ずしも同じにする必要はない。
参加者	アンケートはどの施設から回収された回答かわかるようにしておいた方がよい。
参加者	極論を言えば何もしていない人はいないので、活動率は100%ではないか。
参加者	感覚の差はあると思う。対象は積極的に取り組んでいる方なのか、生活の中で何となく行っている方なのか。今回のアンケートの文面では積極的に行っている人に向けたものと感じた。
参加者	地域活動や生涯学習自体への理解が浅い方でも回答しやすいように、もう少しわかりやすい文言としたほうがよい。
事務局	いただいたご意見を参考に修正する。
	<p>4 その他</p> <p>(1) 今後について 事務局より今後の予定について説明を行った。 意見・質疑は以下のとおり</p>
参加者	次期計画は令和7年度から始まるのか。
事務局	令和7年度に見直しを行い、令和8年度から始まる予定。 計画とするのか、期間を定めない指針とするのか、上位計画に取り込むのかということも含め、検討する。
	<p>(2) 次回の懇談会について 事務局より、アンケート回収後、2～3月に懇談会を行う旨説明した。 意見、質疑なし</p>
	<p>5 閉 会</p>